

令和4年4月19日に6年生が実施した全国学力状況調査の分析結果について報告します。

「国語の調査結果にみられる特徴と現状分析」

国語の正答率に関しては、全国平均を1.4ポイント（県平均は1ポイント）上回っている。観点ごとに分析すると、「話すこと・聞くこと」に関する項目は全国平均より、5ポイント上回り、「書くこと」に関する項目は、3ポイント下回っている。「読むこと」に関する項目は6ポイント上回っている。また、「言葉の特徴や使い方に関する事項（言葉の語彙力等）」は全国平均を1.3ポイント下回っている。

今年度（令和4年度）本校は、国語の研究7年目（新しい研究主題は1年目）となり、研究主題「自分で見通しを持って読む力の育成」に迫る取り組みの成果が少しずつ表れている。しかしながら、「語彙力を高め、言葉の特徴や使い方に関する知識を高めていく指導の充実」が引き続き重要と考えられる。来年度も継続して取り組んでいく必要がある。

「算数の調査結果にみられる特徴と現状分析」

算数の正答率に関しては、全国平均を1.8ポイント（県平均は2ポイント）上回っている。観点ごとに分析するとおおむね全国平均と同程度かそれ以上の数値となっている。

昨年度（令和3年度）から同様に「数量の関係を捉え、正しく立式したり、計算結果を基に問題場面を振り返ったりすることができるようにする指導の充実」を継続していくことが重要と考えられる。

「理科の調査結果にみられる特徴と現状分析」

理科の正答率に関しては、全国平均を1.3ポイント（県平均は1ポイント）上回っている。観点ごとに分析するとおおむね全国平均と同程度の数値となっている。選択式の正答率が非常に高いのに対し、短答式や記述式（記号ではなく、自分の言葉で書いて答える問題）の正答率が全国平均より低い数値となっていることから、実験結果から考察する活動を重視した学習指導を推進していく必要がある。

各教科の結果や児童質問紙の分析からまず、児童の意欲を高め、苦手意識を克服していく学習指導の充実が重要である。また、授業の中で学習問題やまとめを自分の言葉で書いたり、学習の振り返りの時間をしっかり確保したりすることで、児童1人1人の主体的な学びにつなげていく指導が大切であることがわかった。本校でも引き続き、日々の授業構成及び授業改善から確かな学力の育成を図っていく。